第 2016-38 号

恵みと真理のニュース

2016 年 9 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　私に神癒の恵みを与えてくださり、神霊な喜びとやりがいを感じ伝道の使命を担えるように導いてくださる神様に感謝を捧げます

私は神様を信じない家庭で生まれイエス様がどんな方で教会が何事をするか全くわからないまま育ちました。私の家族の中で妹が成人になって一番先にイエス様を受け入れ恵みと真理教会のアンヤン聖殿を通い一人で熱心に信仰生活をしました。そうしながら、私を会うたびに福音を伝えて一緒に教会に行こうと誘いました。しかし、私は忙しい生活で妹の粘りつよい伝道と頼みにも言い訳をして教会に行くのを断りました。

そうするうちにある日から体が疲れて痛い始めました。すぐ治ると思って生活をしていましたがある日、急に下血をしました。近くある病院に行ったら早く大きい病院に行きなさいと言われました。ソウルの新村ある大きくて有名な病院で入院して様々な検査を受けました。そして、子宮頸がんだと確診されました。晴天の霹靂な消息でした。

手術を前もってとても怖くて私も知らずに病院の中にある教会に向かいました。礼拝室の椅子に座ると今までの過ぎ去った歳月が走馬灯のようにつぎつぎと浮かんできました。そして、礼拝時間ずっと心配して悔しい心で限りなく泣いて祈りの時間に初めて神様に祈りました。"神様、私を癒してください。私の病気を治療してくださると神様だけ信じ従います。妹のように伝道も頑張ります。" とても切迫な状況でしたのでこのような祈りをしました。 走馬灯のようにつぎつぎと浮んできた　走馬灯のようにつぎつぎと浮んできた 走馬灯のようにつぎつぎと浮んできた 走馬灯のようにつぎつぎと浮んできた

幸いであり、感謝するように手術はよくできました。どんどん健康が回復しました。体がある程度回復すると妹が来てお姉さんがイエス様を信じ教会に通うと生きるから一緒に教会へ行こうと誘いました。しかし、切ない心で神様に祈って神様が治療してくださったことを忘れて、以前の生活に戻って世の中でさ迷いました。

２００２年新しい仕事を探してアンサンで引っ越しました。すると今回は家の主人が私を伝道しました。しかし、私はまた様々な言い訳をして教会に行かなくなりました。その以後また体が痛かったです。その話を聞いた妹は走ってきて私の手首をつかんで恵みと真理教会アンサン聖殿に導いてくださいました。

聖殿に入ったやいなや涙が出て止まらなかったです。礼拝が始まってたくさん泣いて瞬間心が楽になり病気に対する恐れがなくなりました。その日、当会長の牧師の説教御言葉の本文はイザヤ書４１章１０節の御言葉でした。"恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。"

教会に通い始めてまもなく礼拝を捧げるため教会に行く時間を待つようになり礼拝が楽しくなりました。洗礼を受ける日、洗礼問答時間に"イエス様がたれのせいで十字架に死なれましたか？と聞く質問に"私ためです。" と答えました私が答える瞬間私の目の前は十字架にかけられたイエス様の姿が見えました。限りない慈しむ表情で私を眺めるイエス様の顔が浮かんで他の質問は答えなくて伝道士の前でただ泣き続きました。

私は性格がとても気が短くて多血質で他の人々とよく交わることが出来なくて気に入らないとすぐ相手と争いました。それで、イエス様を信じた後は私の性格を優しくて謙遜で余裕もある性格で変えてくださいとたくさん祈りました。そうしながら、" 何を守るよりも、自分の心を守れ。そこに命の源がある。 曲がった言葉をあなたの口から退け／ひねくれた言葉を唇から遠ざけよ。（箴言４：２３，２４）聖書の御言葉をよく黙想してこれを実践するように努力しました。するとイエス様を信じる前には決心して努力しても変わらなかった私の性格が変化されました。そして、心に主がくださる神霊な平和と余裕が出来ました。これも神様の恵みです。聖書を読みペテロに関する話を聞いてペテロがまるで自分のような気が短い性格の人にも関わらずイエス様の弟子として神様の国のため用いられたのが感動で過去手術をする前、病院内にある教会で神癒の恵みを求めて祈ったのが思い出しました。治療をしてくださると熱心に伝道すると決断した約束が思い出しました。それで、伝道すると強い決心して区域長をついて伝道しました。　始めは怖くて人々に声をかけることもできなくてはにかんでもじもじしました。どころが、ある日、そんな状況で急に私の体はまるで電気に感電されたように震えました。その瞬間、私は私に大胆さを与えてくださり伝道の熱情を与えてくださるのを感じました。その時から充満な使命をもって全ての恐れがなくなり、私の口から聖書の御言葉が出始めて自分も驚きました。

そのように熱心に人々を伝道したら愛した伝道賞も受けて区域長の職分も担えるようになりました。伝道して疲れたときや酷い迫害を受けると十字架のイエス様を考えイエス様が最後に命令した御言葉のように"　それから、イエスは言われた。「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。" （マルコによる福音書１６：１５）、" 御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい。とがめ、戒め、励ましなさい。忍耐強く、十分に教えるのです。" （テモテへの手紙二４：２）とおっしゃった御言葉を考えながら力を得て恐れません。どんな日は体が痛くて様々なことで頭が複雑な時に区域長のカバンをかけて町に行き"イエス様を信じなさい。" 伝道してみるとすぐ力が出来て頭の中もきれいになります。伝道をしながら神様の恵みと愛に感謝する賛美が心の深いところから自ら歌うようになり、そんな私の姿を見ると笑い"私がこのようになったのは神様の恵みです。" とほほ笑みあいました。

私に神癒の恵みを与えてくださり、魂を救ってくださり、今日信れいな喜びとやりがいを感じ伝道をよく担えるように導いてくださる神様に感謝を捧げます。ハレルヤ！

［信仰コラム］　以前と今と将来

" しかし、あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神のものとなった民です。. . . " （ペトロの手紙一 2:9、10）

人は一生の間に様々な変化を体験します。身体的成長に従う変化、知的な向上と精神的な成熟による変化、結婚して家庭を成すことや住居の移動、様々の組織社会の構成員になり身分と地位の変化を体験します。しかし、人が体験できる最も大きな変化はこれらとは異なる体験からきます。それはイエスキリストを信じる前と信じた後の差であります。その以前と以降は身分と地位だけではなく生活の内容において大きい変化があります。イエス様を救い主として信じて迎接する人はその瞬間から以前の人ではなく全く異なる人になります。

第一は、" あなたがたは、選ばれた民 " だとしました。

人はイエスキリストを信じる前にはこの世に属した民として神様の怒りの下にあり終局には審判を受けて滅びます。しかし、イエスキリストを信じると神様を哀れみを得て神様の属した民になる素晴らしい身分の変化を被るようになります。神様に属した民は神様の所有になった民です。これは絶対安全を意味して特別な価値が付加されることを意味します。キリスト人は天使が欽慕（きんぼ）する存在であります。

第二は、" 王の系統を引く祭司 " だとしました。

まず、王の身分について調べてみます。神様が人を御造りなさって全てのことを治める地位を与えてくださいました。王権を下さったのです。しかし、アダムの堕落によってこのような王権を喪失しました。呪いと死の支配を受けるようになり、罪悪に結ばれてサタンの支配を受けるようになりました。しかし、イエス様が人を罪と呪い、そして死とサタンから自由を得るようにするためこの世にお越しになり十字架の贖いの死と復活を通じて彼を信じる者に王の地位を得るようにしてくださいました。聖徒達は古き人に属した気性を治めるべきです。サタンを対敵して退けるべきです。聖徒として王のように行うと古き人に属した気性と艱難、試みとサタンを治めながら生活することができます。

次は、祭司長の身分について調べてみます。罪の中に生きる人は神様と敵とされた状態にあり罪人は神様の前に進むことができません。旧約時代には祭司長だけが聖所に入ることができて神様の御座を象徴する至聖所には一年にただ一回大祭司長が大贖罪日に祭壇で殺した贖罪捧げ物の血を持って入らなければなりませんでした。このような法を犯すと誰であれ死を免れることができません。しかし、イエス様の贖いの恵みによって彼を信じる誰でも神様と交じらい神様に仕えることができる道が開かれました。聖徒は祭司長のように生きるべきです。祭司長は神様に申し上げ神様の御言葉を聞きます。人々を神様に導きながら神様の思いを伝えます。神様に祭祀を捧げます。イエス様は万王の王であり私達の大祭司長であってイエスキリストを信じる者はキリストの中で王の系統を引く祭司になりました。

第三は、" 聖なる国民 " だとしました。

聖なるという原語 ' ハギオス ' は ' 区別される、異なる ' という意味を持っています。イエスキリストを信じる人は聖なる者になり聖なる国に住んでいます。この世の国とは異なる区別された国に住んでいます。これは神様の権威の下で生きていくことを意味します。聖なる国に住む人は生活の方法が異なります。まず神の国と神の義とを求めながら生きていきます。生活の目標が異なります。神様から称賛と尊貴、光栄を得るために生きます。

誰かが皆さんに " イエス様を信じる以前とイエス様を信じた以降を比較すると変わったことは何ですか？ " と尋ねると次のように答えてください。 " 私が以前は神様の民ではなかったが今は神様の民で、以前は哀れみを得られなかったが今は哀れみを得た者になりました。私は神様が選ばれた民であり、王の系統を引く祭司であり、聖なる国民であり、神のものとなった民になりました。そして、将来には復活した体で誠に美しくて燦爛とする新たなエルサレムで主と永遠に生きるようになるでしょう。 " そしてこの変化された身分と地位に合う行いをしながら生きてください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム ‘緑の牧場、清い川’ 本の語り中」

健康と病気のいやしのために祈りなさい

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

ヨハネの第三の手紙では使徒ヨハネがカイオという一り個人に送った書信です。当時巡回教師らの接待の問題と係わって特別に模範されたカイオを誉めて励ます私的な内容を記録しているみじかい手紙です。 ヨハネの第三の手紙では少ない分量の書信だがこれは聖霊の感動を受けて記録されました。 だからこの書信はカイオ個人にだけ当たるのではない教会時代のすべての聖徒にも等しく適用される神様のお話です。今日はヨハネの第三の手紙 2 節の内容の中で肉体と心の健康に対する聖書の教えをよく見ます。 ここには私たちが元気になるためにそして病気のいやしを受けるために祈ることを教えています。 私たちが病気のいやしになるために神様に切に求める理由があります。

第一は、愛と権能が無限な神様を信じるからです。

神様は愛と権能が無限です。 愛だけ持ってからは問題をすべて解決してくれることができないです。 親が子を愛するがその愛で子の苦痛をすべて解決してくれることができないです。問題を解決してくれることができる権能がなければなりません。 ところで 神様は愛と権能を皆 持った方です。

二番目は、神様は自分を示して治療する医者とおっしゃったし実際に彼の民をいやしてくださったからです。

エジプトから自由を得て出たイスラエル民が紅海を渡った直後に神様は自分を示しておっしゃるのを “わたしは主であって、あなたをいやすものである”(出エジプト記, 15:26) しました。 ユダ国のヒゼキヤ王が重病になったが神様が引っ越しは予言者を彼に送っておっしゃるのを “お前は君の家を整理しなさい。お前は死ぬでしょう。” しました。 ヒゼキヤが顔を壁で向けてエホバに祈るのを “主に祈って言った、「ああ主よ、わたしが真実を真心をもってあなたの前に歩み、あなたの目にかなうことをおこなったのをどうぞ思い起してください」。そしてヒゼキヤは激しく泣いた。” 甚だしく泣きわめきました。 するとヨホバのお話がイザヤに臨みました。 「行って、ヒゼキヤに言いなさい、『あなたの父ダビデの神、主はこう仰せられます、「わたしはあなたの祈を聞いた。あなたの涙を見た。見よ、わたしはあなたのよわいを十五年増そう。わたしはあなたと、この町とをアッスリヤの王の手から救い、この町を守ろう」”(イザヤ書, 38:5,6) としました。

三番目は、イエスキリストが 3 年半の間の活動を通じて病んだ者を数えきれなくいやしたからです。

新約聖書の福音書でマタイによる福音書 、マルコによる福音書 、ルカによる福音書にはイエス様が病んだ者をいやす事件が一杯です。
イエス様は多くの時間を病んだ者をいやすのに割きました。

病気のいやしを受けるためにイエス様に出て来た人の中そっぽを向かれてしりぞけを受けた人は一人もいないです。 イエス様は彼に出て来た病んだ者をすべていやして時時にいちいち手を上げていやした事実が記録されています。 “夕暮になると、人々は悪霊につかれた者を大ぜい、みもとに連れてきたので、イエスはみ言葉をもって霊どもを追い出し、病人をことごとくおいやしになった。”(マタイによる福音書 8:16)、“日が暮れると、いろいろな病気になやむ者をかかえている人々が、皆それをイエスのところに連れてきたので、そのひとりびとりに手を置いて、おいやしになった。”(ルカによる福音書 4:40) としました。

四番目は、イエスキリストによる救いの恵みの中に病気のいやしが含まれているからです。

病気のいやしはイエスキリストによる救いに含まれています。 イエスキリストによる救いは非常に手広いです。 イエスキリストによる救いには罪の赦しを得させて義のあるようになることが含まれています。 イエスキリストによる救いにはサタンの誘惑と悪に対して勝利させることが含まれています。 イエスキリストによる救いには肉体の復活と新しいエルサレムに入るのが含まれています。 イエスキリストによる救いには富みのことが含まれています。イエスキリストによる救いには病気のいやしも含まれています。 使徒ペテロは記録するのを “さらに、わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである。”(ペテロの第一の手紙 2:24) しました。 私たちが天国に入った後には病気のいやしを切に求める必要が全然なくなるでしょう。 不完全で弱い肉体を持ってこの世の中に生きて行く間に皆さんは積極的に病気のいやしの恵みを享受するように願います。

五番目は、イエス様が弟子に病んだ者をいやす事をするように命じたからです。

復活したイエス様 が天に昇りなさる前に弟子を集めてこんなに最後の言付けをしました。 “そして彼らに言われた、「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる。 信じる者には、このようなしるしが伴う。すなわち、彼らはわたしの名で悪霊を追い出し、新しい言葉を語り、へびをつかむであろう。また、毒を飲んでも、決して害を受けない。病人に手をおけば、いやされる」”(マルコによる福音書 16:15～18). 弟子がイエス様のお言葉に従順して行う時に病んだ者の癒される奇跡がよりました。
一度はイエス様の弟子ペテロとヨハネが祈ろうと聖殿に入る内に聖殿の門の前で物乞いするいざりを見ました。 ペテロが彼に向けて “ペテロが言った、「金銀はわたしには無い。しかし、わたしにあるものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい」。 こう言って彼の右手を取って起してやると、足と、くるぶしとが、立ちどころに強くなって、 踊りあがって立ち、歩き出した。そして、歩き回ったり踊ったりして神をさんびしながら、彼らと共に宮にはいって行った” その姿を見た人々が甚だしく驚いて奇妙に思いました。 マルコによる福音書 16 章 20 節に “弟子たちは出て行って、至る所で福音を宣べ伝えた。主も彼らと共に働き、御言に伴うしるしをもって、その確かなことをお示しになった。”と記録されました。

六番目は、クリスチャンは病気のいやしを受けるために祈りなさいと聖書に記録されたからです。

“あなたがたの中に、病んでいる者があるか。その人は、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリブ油を注いで祈ってもらうがよい。信仰による祈は、病んでいる人を救い、そして、主はその人を立ちあがらせて下さる。かつ、その人が罪を犯していたなら、それもゆるされる。だから、互に罪を告白し合い、また、いやされるようにお互のために祈りなさい。義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものである。”(ヤコブの手紙 5:14～16). 義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものであると言ったがここに義人と言うのはイエス様を信じる人を示します。 ローマ人への手紙 3 章に記録されるのを “すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており、彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。”(ローマ人への手紙 3:23,24) しました。

七番目は、病気のいやしをために祈って治癒を経験するようになればさまざまな有益を生むからです。

治癒を経験すれば 病気のいやしの人の信仰が増進されます。 また病気のいやしを受けた事によって神様に感謝と栄光を持たせるようになります。 また不信者に神様の愛と能力を見せてくれる証拠になって福音電波に役に立ちます。そして元気な肉体で神様の仕事に積極的に力をつくすことができるようになります。
人はとの誰も元気な生を暮すことを願うがこの世の中に生きて行く間に疾病の脅威から解放された人は誰もいないです。 ところで私たちが心を開いて聖書を上告すれば驚くべきな事実が分かるようになります。 神様は私たちが元気なのを願って私たちの病気をいやしてくださるために今も働くというのです。 だけでなく神様は教会と聖徒に病気をいやす使命をくださったというのです。

今日の医術と医薬の発展は驚異的であると言えます。 多くの疾病が予防接種や治療薬に予防されて癒されます。 予防接種を拒否して病気のいやしの祈祷にだけ寄り掛かるとか簡単に薬に解決されることができることを病気のいやしの祈祷にだけ解決しようと思う理由はないです。神様は病んだ体を治癒するのに有益な材料を植物、動物、鉱物の中に残したし治療薬と治療の器具を作るように人々に知恵をくださいました。だから医者の診断と処方を受けながら薬を飲むことは信仰に行き違わないです。 しかしそんな方便で働く神様の手助けを見逃してはいけないです。 それだけではなく医術ではいやすことができない場合に病気のいやしの恵みによって癒されることがいくらでもあります。イエス様の活動に対してマタイによる福音書, 9 章 35 節にこんなに記録されました。 “イエスは、すべての町々村々を巡り歩いて、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆるわずらいをおいやしになった。” 病気のいやしの恵み時代は通ってしまったのではないです
“イエス・キリストは、きのうも、きょうも、いつまでも変ることがない。”(ヘブル人への手紙 13:8)と言うお話どおり今も病気をいやしてくださるのを切に求めて神様に出て来る者を神様はあわれんで思いながら治癒します。

皆さんは病気のいやしのために祈る七種の理由を思って積極的に病気のいやしを切に求めて健康と病気のいやし受ける恵みを享受するように願いします。